

はなもり
花守 代表 須田 寛子 氏

「花」は世界の共通言語。国内外に華道の文化と魅力を伝えたい



PROFILE

新潟市出身。留学・会社員時代と合わせて6年間モスクワに在住。2003年に帰国してからは新潟を拠点にロシア語の通訳などを行う。1998年池坊入門。2016年池坊中央研修学院総合特別科修了。華道家元池坊いけばな教室とともに「花守」の事業を開始する。

池坊の華道家として歩みつつ、「花守」という独自のスタイルでさまざまな活動を行う須田寛子さん。現代に即したいけばなの魅力を広め、海外での事業にも力を入れる須田さんに、活動の内容や今後の展望などを伺いました。



花守

〒951-8053
新潟市中央区川端町3-20-701
TEL & FAX 025-211-4995
URL <https://hanamori-hrk.com>

いけばなは一瞬の芸術。
学んできた知識や見てきた風景が
作品に反映されていると思います



昨年の夏、新潟産のトルコキキョウをロシアへ持っていき、紹介したワークショップ。ロシア人の日本文化に対する興味は非常に高く、毎回多くの人が参加。こうした活動で、現地の人脈も広がっているという

いけばなの発信と普及のため 幅広い活動を展開

いけばなを中心にした事業を展開する花守は、池坊華道会中央委員である須田寛子さんが、華道の新たな可能性を求めて2016年に立ち上げた。

「自宅で華道教室を開いてお稽古をするというスタイルが、今の時代には少し合わなくなっている気がしました。もちろんそれが本流ですが、そこに行くためのきっかけづくりというか、もう少し違ったことをしなければ華道も生き残っていけない。そのための新しい形を模索しようというのが事業化を考えるきっかけでした」と須田さん。そこで花守では店舗や企業へのいけばな作品の制作・設置から、式典やイベント会場で行う花の生け込みをはじめ、池坊華道教室や屋内外でのワークショップを実施するなど、いけばなの発信と普及に努めている。

ロシアで得た経験を活かし 日本の伝統文化を伝える

もう一つの大きな事業が、ロシアでの活動だ。

かつて商社に勤務していた須田さんは、モスクワに赴任、帰国してからはロシア語の通訳やガイドのほか、在新潟ロシア総領事館にも勤務した。「ロシアは大事な隣人ですし、親日家が多い国でもあります。私にしかできない国際貢献を考えたときに、ロシアに向けた取組は外せないと思いました」。

これまで主に、ハバロフスクやウラジオストクの日本総領事館、現地のパートナー企業などが企

画・運営するイベントなどで、いけばなのワークショップを開催。時には着物姿でいけばなを教え、お茶や書道も披露するなど、日本の伝統文化を伝えている。

日本産^{かき}花卉の輸出に向けた 下地づくりに着手

「ロシアの人たちは本当に花が好きなので、日本産の高級花卉は需要があります」と言うように、須田さんが今目指しているのが日本産切り花の輸出だ。そこで新潟商工会議所の支援を受け「小規模事業者持続化補助金」を活用し、ロシアでの日本産花卉や華道具の販路開拓に向けた下地づくりを始めている。

今後はロシアでの華道教室を順調に進め、現地の指導者を育成する予定。そして日本人にも、もっと花を身近に感じてほしいという。「お祝いのときだけでなく、生活の中に花があると良いと思うんです。例えば職場で毎週誰かがお花を生ける当番ができるとか、そういう動きが出てくるためには何をすれば良いのか模索しているところです」。

花の命を最後まで見届ける「花守」という営みが、華道家の役割と語る須田さん。その情熱と行動力で、新しい時代に向けた華道の世界を広げてゆく。



作品の一例